

## 府立学校の在り方懇話会高校教育部会（第4回）の開催概要

1 日 時 平成12年9月21日（木）13：30～16：20

2 場 所 京都府公館 第5会議室

3 出席者

（部会委員）11名 <欠席1名>

（京都府教育委員会）西山教育次長、津守指導部長、松本指導部理事、福岡高校教育課長  
ほか

### 4 概要

#### (1) 協議

ア 追加意見交換

##### (ア) 事務局説明

定時制・通信制課程の現状について以下の内容が説明された。

- ・ 市内定時制における現状、分校における現状
- ・ 単位制定時制単独校（全国状況）
- ・ 通信制課程在籍状況

##### (イ) 意見交換

定時制・通信制課程の在り方を中心に意見交換を行った。

<委員の意見要旨>

- ・ 生徒の実状が変化している定時制・通信制のシステムとしては、比較的緩やかな学習の仕方が可能な単位制とすべきである。
- ・ 全日制を何らかの形でやめた生徒が、私立の通信制高校へ行く実態がある。当然、公立に比べ授業料が高い。公立でも柔軟に受け入れられる学校が必要である。
- ・ 不登校経験者にはナーバスな人もいる。そんな子どもたちは、従来の全日制高校でがんばれと言っても難しいと思う。ここは安全なんだというような場所を提供することが大事である。
- ・ 生徒の多様化への対応としては、総合学科や総合選択制などの柔軟なシステムの活用が考えられるのではないかと。
- ・ 数年前になるが、他県の定時制・通信制単独校を視察した。単位制で、昼間部もあり授業では子どもの目が輝いているのが印象的であった。不登校であった生徒や、高校を中退した経験のある生徒もいると聞いた。環境が変わればこれだけ目を輝かして学習するのかと実感した。
- ・ 定時制と全日制との併置は、例えばクラブ活動の面や施設利用の時間などお互いに制約があり、お互いの良さが発揮できない面があるため、併置制の在り方に

ついて検討すべきである。

- ・ 履修形態の多様な学校については賛成だが、メンタルケアのシステムも考慮する必要がある。
- ・ 通信制の問題は、生徒数の変化を課題とするのではなく、どのような生徒がどうして通信制に来たのか、というその背景を踏まえ、教育の基本に返ってその部分を検討する必要がある。
- ・ 小集団の中でじっくり学ぶという形態を希望する子どももあり、北部ではその子たちは定時制、つまり分校を中学校卒業後の進路目標としている実態がある。府立学校の在り方を検討するに当たっては、そういう子どもたちがいる状況を考慮すべきである。

#### イ 各項目別協議

検討項目決定時の3本の柱に沿って意見をまとめ、方向性が確認された。

#### (7) 「学科構成の在り方」について

生徒の個性化、価値観や職業観の多様化している近年、現状の学科構成を見直す必要があるのではないかと、という前回までの多数意見を受け、再度意見交換がされた。

そして、98%近くの中学生在が高校へ進学する中で、多様な生徒が入学している公立高校では、各々にふさわしい学びの機会を提供する必要がある。そのためにも、思い切って学科構成の比率を変えるという方向性が確認された。

#### <委員の意見要旨>

- ・ 従来は 類を希望していた生徒が、より特色化した専門学科を希望する状況にある。そこで、そのような特色ある専門学科はより充実させ、定員を増やす。そして従来の ・ 類は、入学してから 類的なコース、 類的なコースへ進むというような形態にしてはどうか。
- ・ 学科構成を見直すには、現在の3学期制のみの状況や通学区域の見直しもあわせて検討し、それぞれの子どもの個性を伸ばせる学校へ行けるという制度が必要である。
- ・ 普通科の在り方については、全ての学校にある 類の適正配置をしたら良いのではないかと。 類を入学時から人文・理数などに分けているが、文系・理系に分けるのが早すぎる。生徒の実態を把握してからクラス分けをするといった学校裁量も必要ではないかと。
- ・ 学科構成については、現在の産業構造の統計的な数字を踏まえて考えるべきである。例えば、サービス産業が多くを占めているが、サービスや観光などを徹底

的に教える学校がない。情報や福祉等も含め、新しい分野への対応が必要ではないか。

- ・ 普通科と職業学科の比率が約 8 対 2 である。実態から考えて、普通科を半分、特色ある専門学科や従来の職業学科また総合学科などで半分という比率になっても良いのではないか。

#### (イ) 「教育内容の在り方」について

前回も含め、学科構成を協議する中で、特に普通科の教育内容について多くの意見が出た。基礎・基本の習得とともに、適度な競争による切磋琢磨の中で力をつけさせることが重要であり、そのためには、各高校ごとに特色を絞り、学校や生徒の実態に応じた教育課程等を準備する必要があることが述べられた。

##### < 委員の意見要旨 >

- ・ 高い教養をめざす大学や専門的能力を高める大学を目指す高校が必要である一方、世の中の流れとしては、例えば、将来は大学の 4 年間で従来の高校で学んだような知識を習得して卒業する生徒も出てくることも予想されるが、それはそれでいいのではないか。全てが全て同じ基準で考える必要はない。
- ・ 公立としての役目を考える時、生徒の多様化にきちんと対応するためには、生徒にとって必要なものはどこかで学べるよう学びの場を提供する必要がある。
- ・ 教育内容の在り方を考える際には、従来の固定観念にとらわれず、学期の区分をどうするのか、各学校ではどのようなカリキュラム編成にするのか、というあたりの検討が必要であるとともに、そのあたりの校長の裁量権も拡大するのが良いのではないか。
- ・ 現在の類・類型制度は、同質化してきているという指摘もあるように、従来の教育内容の在り方を見直す時期にきている。見直す方向としては、それぞれのエリアごとに、様々な特色・教育内容を持つ学校を適正に配置し、生徒に選択させるというのがこれまでの議論の方向だ。
- ・ 生徒の才能を充分伸ばすことのできる高校、又はコースやカリキュラム作りが必要だ。公立高校には優秀な生徒を更に伸ばせる環境が整っていないように感じている。

#### (ウ) 「選抜方法の在り方」について

学科構成や教育内容の在り方については、個性化・多様化への対応として、幅広い生徒を各学校で一律に受け入れ、多様な教育内容を用意するのか、それとも生徒の目的に沿った多様な学校を用意し、それぞれで特色ある教育を行うのか、という課題に対し意見交換を行った結果、学校が各々特色を分担することが必要ではないか、という意見が多数を占めた。

したがって、各学校が今まで以上に特色化を図った時、その特色を選択できる選抜方法が必要である。その結果、広範囲から生徒が入学してくることも想定されるが、地域に根付いた高校という視点もまた重要であることが述べられた。

< 委員の意見要旨 >

- ・ 新しい学習指導要領の実施で小・中学校の教育が大きく変わり、中学校3年間の学習のうち4分の1は各学校ごとに違って来るわけで、当然、選抜方法の在り方も考える必要がある。
- ・ 単位制高校においては、高校に入学したがいわゆる集団になじめないなどの理由で学校を変えたい生徒の転入学、あるいは編入学といったところまでを視野に入れた柔軟な制度が必要だ。
- ・ 選抜では、中学校での観点別評価も生かしていくことが必要である。中学校では体験的な活動がどんどん取り入れられる傾向であり、それを加味し、中学校での教育の中身を見ていくことが必要である。
- ・ 高校の適性検査問題を公表すれば良いという声もあるが、公表せずに第三者機関に適正かどうかの判断をもらうような問題づくりが必要ではないか。公表すれば、受験テクニックに走ってしまって、適性を見るのが難しくなる。
- ・ 受験機会については、2回与えても良いのではないか。
- ・ 公立と私学を同一日に試験をして、公立と私立の個性をぶつけあって、中学生に選択させる。それくらいの思い切ったことをしてはどうか。
- ・ 通学圏の設定の仕方に絡んで、例えば京都市近辺でいえば交通事情もかなり良くなっており、少々の遠距離通学もできると考えている。ただし、各高校と地域の関係では、いわゆる地域の学校という視点も必要であり、選抜においてうまく選択できるようにする必要がある。
- ・ 高校生の場合、1時間くらいの通学時間は普通だと思っている。そう考えるとかなり広範囲に通うことができる。通学範囲は、広くとった方が特色ある学校の選択幅が拡大する。
- ・ 京都市を中心とした地域と北部とでは通学区域の設定の仕方も異なってくる。地域とのつながりという点でも地域により違いはある。しかし、必ずしも狭い範囲でなくて良いのではないか。
- ・ 従来のような学力選抜による選抜方法の学校とともに、中学校での体験学習や実習などを評価しながら、入学させる学校があっても良いのではないか。

- ・ 学校がそれぞれ特色を出し、生徒の個性を伸ばせるシステムを作るべきだが、高校の序列化があってはならない。
- ・ 社会に出れば何らかの序列はある。高校で無理に同一にする必要はない。
- ・ 序列とは、一つの基準でみたら序列になるが、特色化することはその特色で見れば優劣があるわけで、別の視点から見れば順序が入れ替わる。特色ある学校づくりというのは、それぞれの特色の視点で学校が評価されるものであって、それぞれ優劣があるのは当然のことである。
- ・ 広範囲から通う生徒もおり、また地元の生徒もいるといった学校が生徒も互いに刺激を受け合うので良いのではないか。PTA活動の面からも地元は大切である。
- ・ 例えば、府内全域から入学できる海洋、工業、商業高校などの学校が地元から遊離しているかという決してそうでない。それは、その学校の先生方、生徒がプライドを持てる教育を実践しているからなのであって、地元とのつながりは学校の中身次第である。
- ・ 例えば、北部地域の交通事情の悪いところは寮を充実すれば、広範囲からその学校に入学することも可能である。

#### (I) その他の意見

- ・ 興味や趣味だけの楽しい世界とビジネスの世界を勘違いしたままでは、社会に出た時どうなるかと心配する。インターンシップを活用するなどして、社会の厳しさを体験学習し、社会人として求められる基礎・基本をしっかりと身につけることが大事ではないか。
- ・ 私立学校に行かないとエリートにはなれないという世の中になっては公教育の在り方としてどうかと思う。
- ・ 現場の教頭や教務部長などの意見も聞く機会を持ってもらえばどうか。

#### ウ 中間まとめについて

中間まとめの体裁について、副会長から提案があり、各項目ごとに一定の方向についてまとめた上で、出された意見を整理し列挙する方法で了承された。